

◆「311 受入全国協議会（通称：うけいれ全国）」とは？

原発事故被災地からの保養キャンプや避難移住など、
さまざまななかたちで被災者を受け入れる活動をしている
団体の全国ネットワーク（約 50 団体）。

2011 年秋から、福島市・郡山市などで小さな相談活動。
2012 年から、20 団体前後を集める相談会を定期的に。
浜通りや、宮城県白石市、栃木県那須塩原市でも開催。
その参加団体の繋がりをベースに、常設の協議会へ。

- ・受け入れ側の団体が、自ら被災地のなかに足を運び、
不安をかかえる被災者の声に直接耳を傾ける

- ・全国各地の団体どうしが、横に繋がり情報を共有し、
保養や移住支援の質を高める

2012 年秋に「311 うけいれ全国協議会」として発足。

現在は6つのワーキンググループ体制

①保養

(保養を普及させ、また保養の質を高める)

②移動教室・国内留学

(学校や行政とも連携した保養の取り組み)

③移住

(「避難・疎開」よりは、「移住・定住」支援)

④送り出し

(被災地内で活動する各地の団体の集まり)

⑤相談会

(春・夏・冬に保養と移住の現地相談会を開催)

⑥ファンド

(保養企画に対して資金援助をする)

◆原発事故発生から4年目の課題と取り組み

課題

- ・安全キャンペーンと風化による被災者の孤立
- ・「保養」という言葉さえ浸透していない現状
- ・保養や母子疎開をしてきた家庭の経済的負担限界
- ・受け入れ団体の側でも、人力や財力が枯渇

取り組み

- ・移動教室や国内留学といった、多様な保養を模索
- ・ファンド事業で、保養の経済的負担を軽減
- ・社会的「保養弱者」を受け入れる企画への助成
- ・被災者＝参加者主導の保養企画で、持続可能性を
- ・「究極の保養」としての移住定住のサポート

→ただし、民間頼みのため体力的・財力的に限界も